

児童の描く10年後の未来に関するスケッチ分析

北海道工業大学 空間創造学部
都市環境学科 房田 順睦

1. はじめに

札幌市手稲区では小学4年生の児童に10年後の手稲の未来を絵に描いてもらい、10年後の成人式で返却する事業を平成5年から現在まで継続している。本研究はそのスケッチのうちアイデア賞として表彰された作品を対象に、描かれた内容の過去から現在までの変化について分析・考察を行う。また全体を通して何に重点を置いているのかを調査する。その他、年度別の作品に描かれているスケッチの傾向を調べるとともに、描かれた対象・内容の変化についても分析する。

2. 分析の方法

平成5年から22年までの18年間分の491の作品を5年区切りでわけて分析を行う。(平成20年以降は22年までの3年間とする) 子供が重点的に書いていることや、当てはまる項目を17項目に分けてその年代ごとにどの項目が多いかを分析していく。たとえば、〈地球温暖化にやさしい〉〈省エネ〉というキーワードがあれば「エコ活動の普及・推進」の項目に入り、〈電気自動車・ソーラーパネル〉といったキーワードがあると「環境技術の発展」という項目に該当する。〈にこにこ笑顔〉や〈事件事故がない世の中になってほしい〉というようなコメントがあれば「平和を望んでいる」「市民生活の安全確保」といった項目に入る。

〈動物を守りたい 自然を増やしてほしい〉または〈緑ゆたかな町になってほしい〉といった言葉があれば「ゆたかな自然・生物を守り育てる」に当てはまる。以上のように、なお、複数の項目が当てはまるスケッチがありそれらのスケッチも分析した。

3. 全体のスケッチの内容と傾向

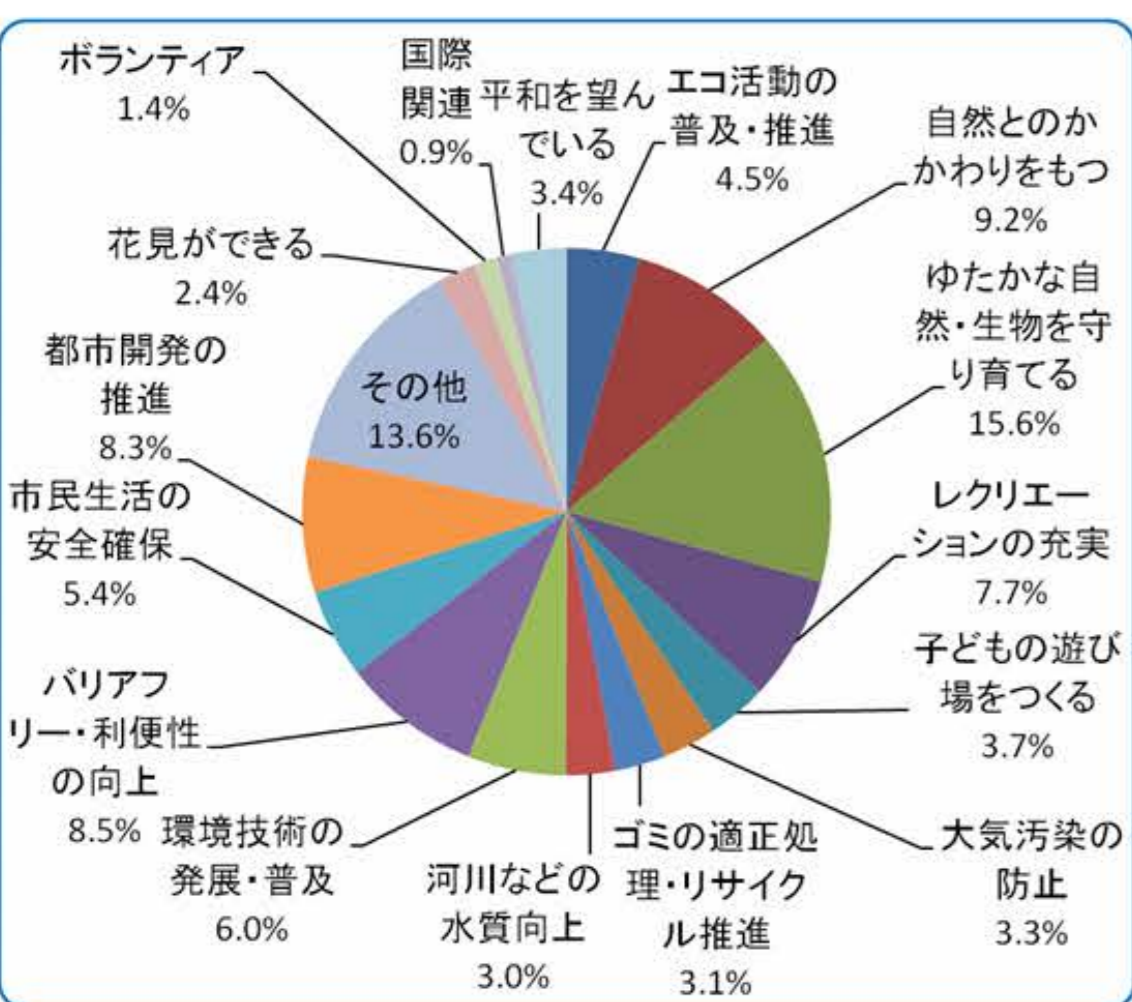


図1 平成5年から22年までのスケッチの内容と傾向

「ゆたかな自然・生物を守り育てる」が16%と最も多く、およそ6~7人に1人は自然をもとめる計算になる。現在の科学技術ではできないこと・少数派など⇒「その他」が14%という結果になった。なかには何も変わらないでそのままいてほしいというコメントや自己実現をもとめる児童もいた。他にもおぼけ、宇宙人、陸を全部海にする、大きなクジラなど現実にはないものもえがかれているスケッチもあった。

「バリアフリー・利便性の向上」を求めるスケッチや「自然とのかかわりをもつ」は9%「レクリエーションの充実」「都市開発の推進」は8%という結果になった。そのほか、環境技術の発展・普及をもとめるスケッチは6%だった。

「平和を望んでいる」「大気汚染の防止」「ゴミの適正処理・リサイクル推進」「河川などの水質向上」が全体の3%と少なかった。「花見ができる」が2%と少なく「ボランティア」と「国際関連」は1%と最も少なかった。

表1 分類別スケッチ・コメント件数の違い

分類	項目	コメント中のキーワード	のべ件数
自然環境の保護	エコ活動の普及・推進	「地球を守る」、「車を使わない」等	61件
	自然とのかかわりをもつ	「山にいく」、「動物と遊ぶ・世話をする」等	125件
	ゆたかな自然・生物を守り育てる	「自然を大切に」、「自然をいっしょにする」等	212件
レクリエーションの充実	レクリエーションの充実	「遊園地」、「みんなが遊ぶ」、「手稲ドーム」等	104件
	子どもの遊び場をつくる	「子供たちが遊ぶ」等	50件
生活環境の改善	花見ができる	「桜」、「花畑」等	33件
	大気汚染の防止	「空気をきれいにする」等	45件
	ゴミの適正処理・リサイクル推進	「ごみを拾う」、「ごみづかい」等	43件
技術の普及・発展	河川などの水質向上	「川をきれいにする」、「川を汚さない」等	41件
	環境技術の発展・普及	「ソーラーカー」、「ソーラー発電」、「天然ガス」等	82件
	バリアフリー・利便性の向上	「ロボット」、「エレベーター」、「エスカレーター」等	116件
	市民生活の安全確保	「みんなが幸せ」、「安全」等	74件
その他	都市開発の推進	「新幹線」、「ビルが立ち並ぶ」等	113件
	ボランティア	「募金をする」、「優しい心を持った人」等	19件
	国際関連	「世界中の国」、「外国の友だち」等	12件
その他	平和を望んでいる	「泥棒がいらない」、「事件が起きない」等	46件
	その他	「空がぜんぶ海」、「なりたい/したい」、「雲に乗る」等	185件

4. 5年ごとの違いと推移

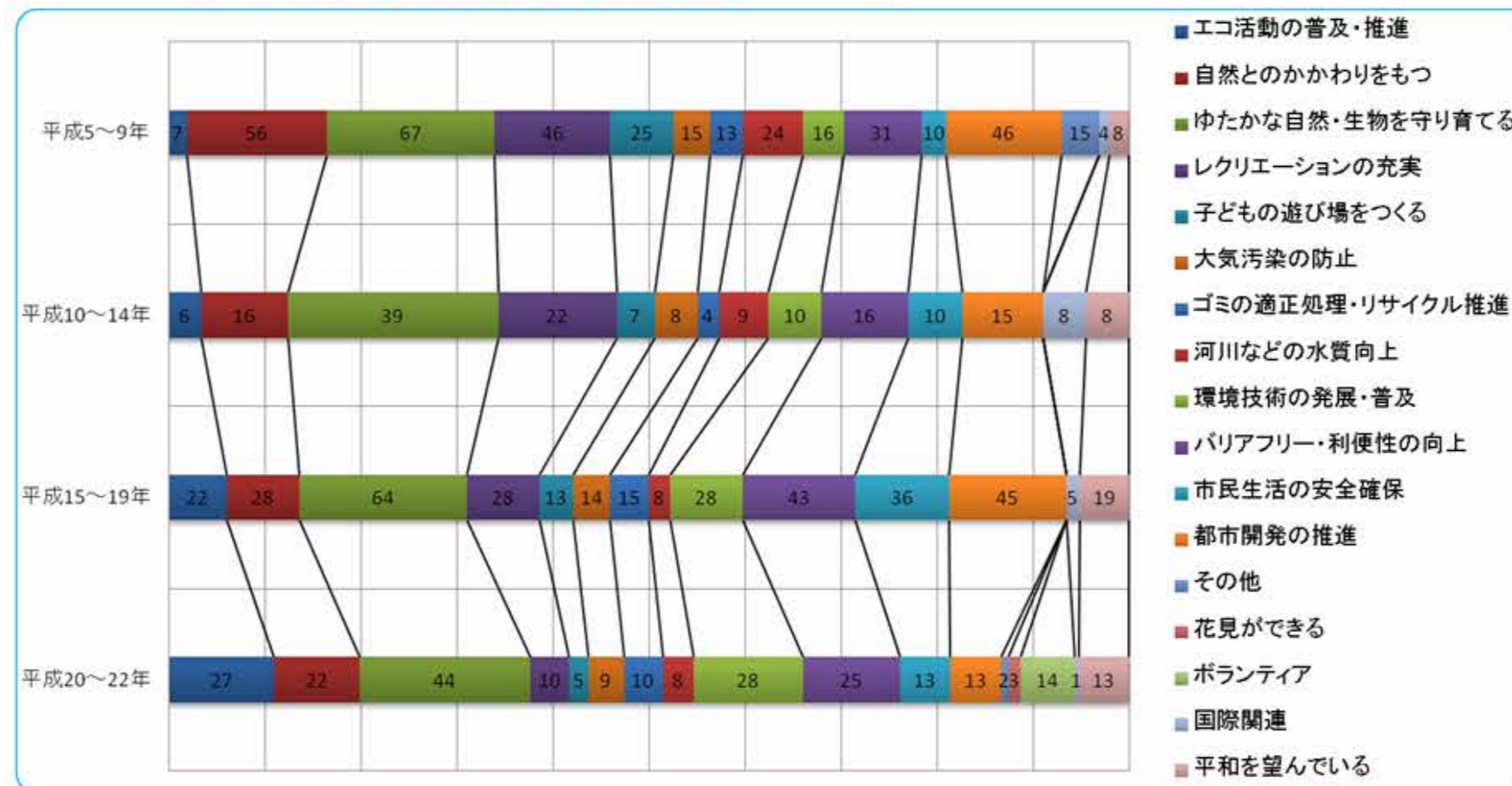


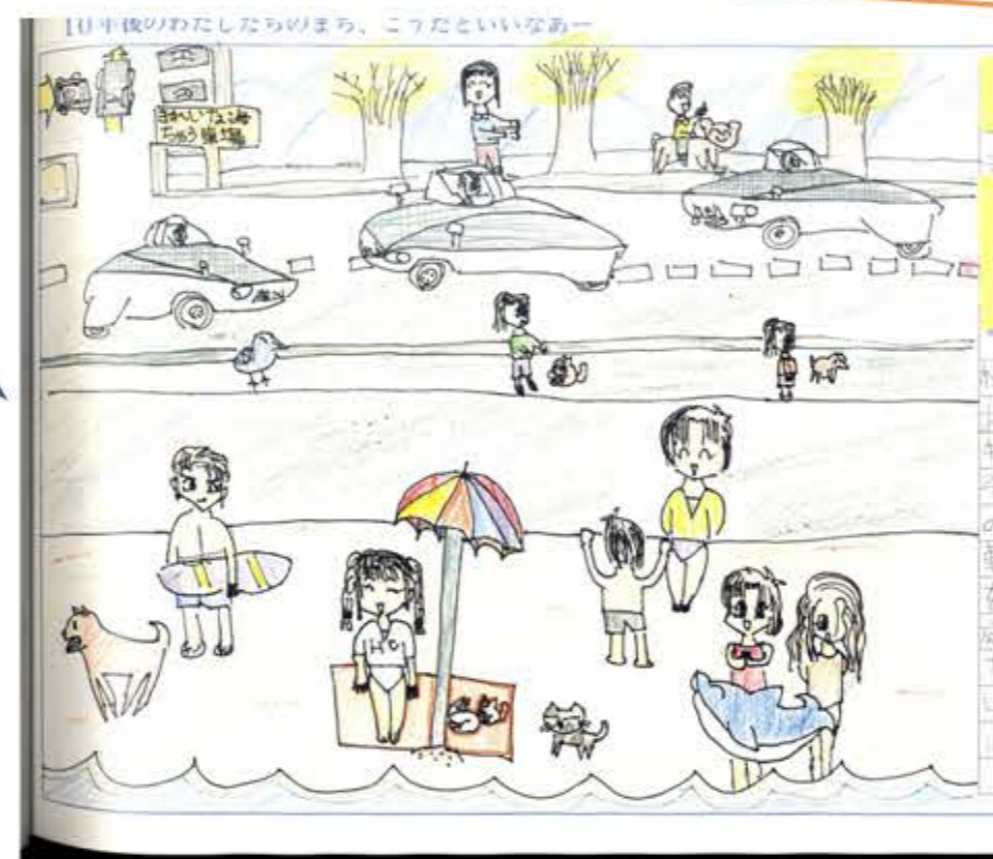
図2 5年ごとの推移(平成20年以降は3年間とする)

「ゆたかな自然・生物を守り育てる」に該当するスケッチは毎年のように一番多いことが分かる。

「エコ活動の普及・推進」が年を追うごとに多くなっていく傾向にある。「平和を望んでいる」や「環境技術の発展・普及」も同じ傾向にある。省エネ活動の推進に関する報道などが影響していることが考えられる。「都市開発の推進」は、増加と減少を繰り返している。

「河川などの水質向上」の項目が減少傾向にある。「レクリエーションの充実」や「自然とのかかわりをもつ」も同じ傾向にある。「大気汚染の防止」は10件前後とあまり変わらない。「ボランティア」をすることに重点を置いたスケッチは平成5年から14年まではほとんどなかった。平成20年から22年にかけて高齢化社会になりつつあるためか出現するようになっていく。

今の手稲区は、あんまり、エコカーとかがないけど、10年後には、不思議な、生き物や、エコカー、山もゴミが一つもなくて、緑豊かな町になってほしいと思います



ここは公園です。5時になると、音楽が聞こえて、くじらから水がでてくる公園があればいいな、音楽いっぱい町にしたいです。



図5 その他に該当するスケッチの例



図3 エコ活動の推進に重点を置いているスケッチの例

図4 自然とのかかわりをもつことに関するスケッチの例

子どもたちが何百歳の木の前でその木を見上げています。まわりには林が広がっていて、自然にめぐまれている。10年後の地球にもこんな緑がいっぱいあってほしい。

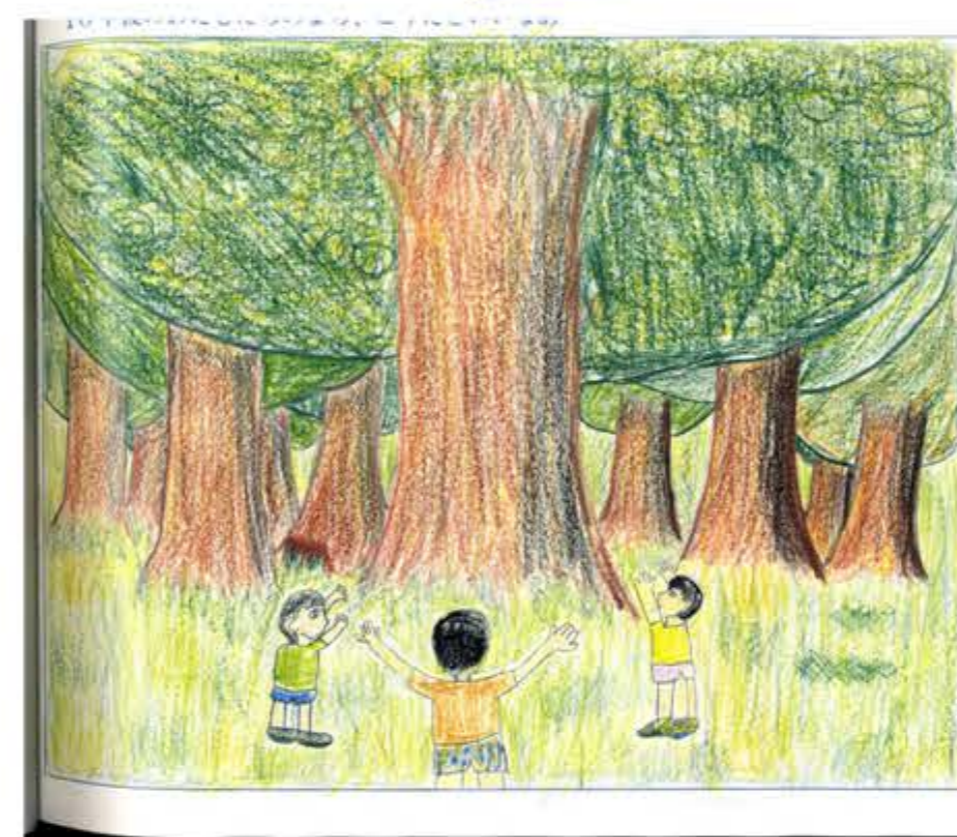


図6 豊かな自然を守り育てることに関するスケッチの例



図7 バリアフリー・利便性向上に関するスケッチの例

この絵は、車いすでも、誰でも、自由な場所で、きがるに乗り降りができるバスのような電車のような車が走っている所です。音楽が流れているので、車が来たことがわかります。体が不自由な人でもいろんな所に行きやすい車です。いつまでも緑がたくさんある町だといいなあ、そして、楽しく住みやすい町になってほしいです。



図8 番号がふられてまとまったスケッチの例

①の音楽大ホールと②の音楽小ホールはオーケストラやリサイタルが開けるようにしたいです。③のスポーツドームは雨が降った日も天気が悪い日も中で野球やサッカーができるドームにしました。④野外ステージは天気のいい日にオーケストラやリサイタルができるといいです。ペットせん用プールは泳ぐのが大好きなペットが利用するプールにしたいです。
※とても長いコメントのため一部抜粋

5. おわりに

今後の課題としては、生命維持など必要最低限である生理的欲求、良い健康状態・良い暮らしの水準など安全の欲求、だれかに受け入れられる等の所属と愛の欲求、自分が社会的地位があることを認められる社会的地位などの尊重の欲求、自分になりえる者になりたい等の自己実現の欲求、他に5段階に分けられたマズローの欲求段階に当てはめて分析をしたい。また、その年代別に教科書やニュースなどから情報を手に入れるなど何を重点的に学習されてそれがスケッチにどれほど影響されているのかを調査していきたい。